

1999年も終わりに近づきました。  
今年も放射能漏れ事故や幼稚園児を同級生の母親が殺害などまさに世紀末を思わすショッキングなニュースが起きました。  
しかし世間で何が起きようか一番の関心事は自分の子どもの様子です。  
皆さんのお子さん、ご家族の一年はいかがでしたでしょうか。

< 第 5 4 回 ほほえみの会 >

初めての方、久しぶりに顔を見せてくれた方。高嶋先生を含め6人が参加しました。

初参加の方は1才7ヶ月の女児。急性リンパ性白血病  
最初は病名を聞いて「ひっくり返しそう」だった  
入院1ヶ月。今でも心の余裕はないが白血球が上がった時など  
少しでも良いことを思ってプラス思考でいきたい  
暗い顔をしているとき看護婦さんが声をかけてくれるのがありがたい

今一番の悩みは姉の事  
幼稚園の年長だがご飯を食べないとかおねしょをするようになる  
など精神的に不安定になっている  
周りの子は皆小学校に上がるのでランドセルや机を買ってもらったりしている  
せがまれるが妹が入院していてとてもそんな気になれない  
またどこへ行っても妹は大丈夫かという話題で姉はどこまで我慢したら妹が帰ってくるのかと聞く  
なんと答えて良いかわからない

兄弟の問題は皆さん悩んだ経験があり  
父親が兄弟と泊まりがけで遊びに行った  
また母親が事あるごとにギュッと抱っこしてやるなど  
したという体験談が出ました

その他に、少しでも子どもの近くにいたいので面会時間前から  
終わりまでずっと付き添っている  
主人とか主人の親が付き添いを代わるというが代われない  
長期戦になるので力を抜くように人からもいわれるが...  
主人が転勤族で今後転勤になるのも心配...  
また周りの人には貧血で入院といっているが本当の病名を言った  
方がいいのだろうか...  
など次々と悩みが出ました

誰でも経験することですが周りの人には病気の話をしてもらえなくてもいい。下手をすると興味本位で話が広がる。家の中でもおじいちゃんおばあちゃんには遠慮がある。家庭の事情は医師にも相談できない。母親は孤独になりがちです。

人に言えない溜まっていたものをいっぱい話すと心の重荷が少し軽くなり、気分も楽になります。  
帰りがけの笑顔が印象的でした。

このお母さんは子どもが病気になったことで  
家族の絆が深まり 家族の大切さを再認識し  
健康のありがたさを知った、と話しています  
病気の子どもの教えてくれることは多くあります。  
来年はきっといい年になることでしょう。  
良いお年をお迎え下さい。

次回は 1月 9日(日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一